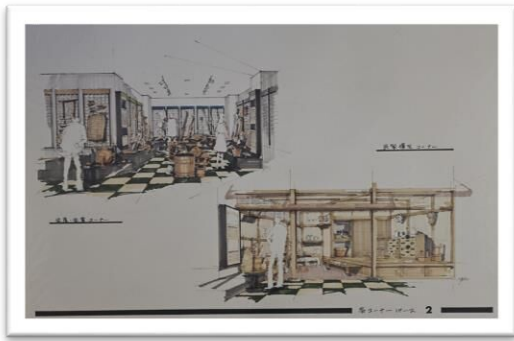


開館40周年を迎えて資料館を振り返ります。



構想時の展示イメージ



開館時



竣工式

昭和61年3月31日



資料館オープン

昭和61年10月6日



現在



エピソード①（開館時）

民具、農具、漁具をこれもあれもと価値があるものを資料館に持ち込んでくださっていた村民の方々……。資料館で保管し、展示するためには、掃除が必要でした。職員は、ひたすらに資料を掃除して、錆をとり、磨くという作業を繰り返したそうです。今では、資料館の資料は、保存状態が良いとまとまっている資料だと評価されています。

エピソード②（開館前）

資料館が開館するまでは、宗像小学校に仮置きされていました。児童は、何で？ここに？と、この家にもありそうなものだったので、不思議に感じていました。あれは資料館が出来るための準備だったんだ……。大人になってから資料館に来館して気が付く人もいました。

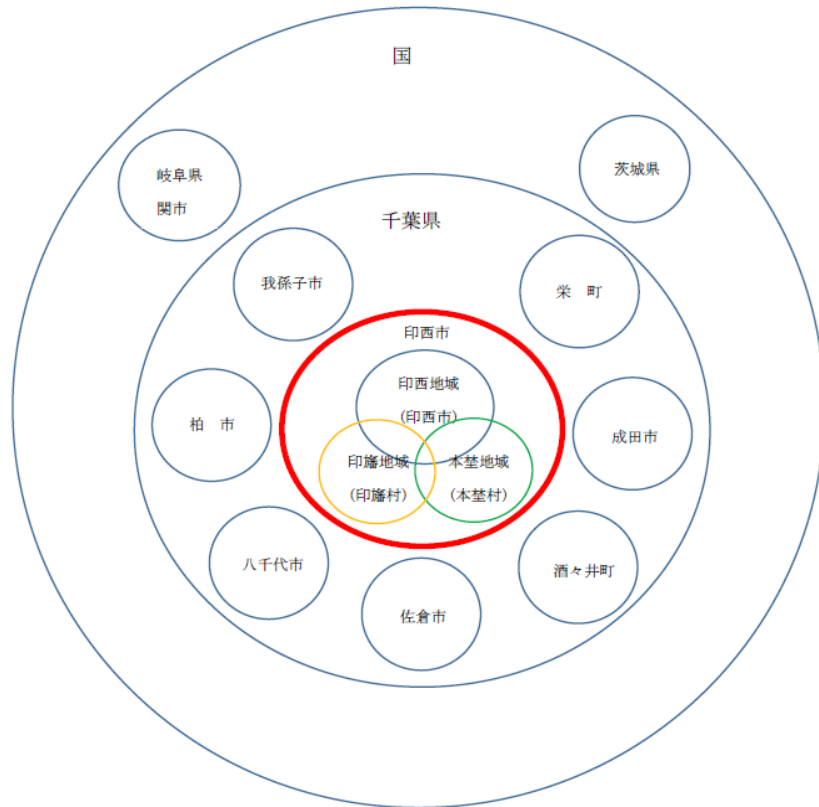
エピソード③（12年後）

村民の暮らしを伝承するために・・

学芸員の配属が印旛村歴史民俗資料館の待望でした。その学芸員が配属されたのが、開館12年後。当時の資料館運営委員5名が折に触れ資料館に来館し、学芸員に色々な場所を案内し、印旛沼のこと、村民しか知らない歴史、暮らし、道具の作り方など多岐にわたり、教えてくださった。それが、印旛歴史民俗資料館の礎となっています。

40年、みなさんに支えられて今があります。

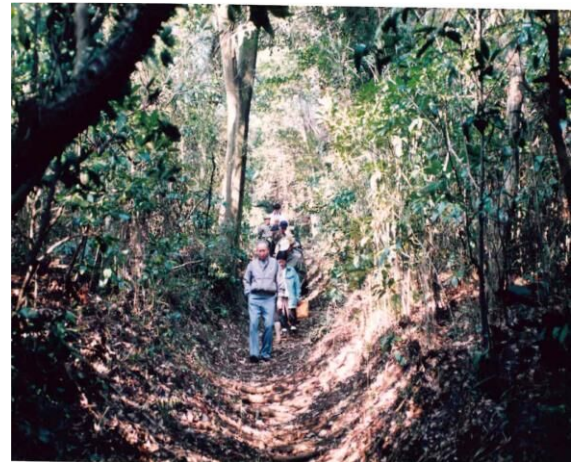
資料館業務
地域概念図
—市域の歴史・
文化地域圏—



思い出行事



「印旛沼のモク取り」講座



花島山 探訪



「古文書解読」講座



「狩猟体験」講座

鎌倉時代～戦国時代

城郭址と板碑などから当時のいんば域が解明されています。



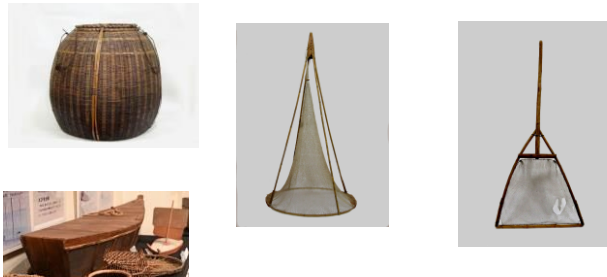
原始・古代時代

先人の足跡と郷土の移り変わりを明らかにした日本史上、世界史上の見地からも各時代の歴史的状況が十分考察されています。

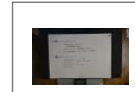


印旛沼漁具

江戸時代より善し悪しにつけ印旛沼と深いかわりを持って生活してきました。



研究 積み重ねていきます。



くらし・生活道具

目まぐるしく変化した時代の人々の心と地域のつながりを解明し、庶民の伝承生活を後世に伝えます。



生業・養蚕・米作り

厳しい封建領主支配のもとで力強く生き抜いた住民の様子をうかがい知ることができます。



印旛沼を詠う

いんば沼が歌人たちのメッカ、歌人の玉手箱と呼ばれた時代がありました。

北原白秋が初めていんば沼と出会い呼んだ歌が記録に残っています。

下総や印旛(いには)の大沼(おおぬ)見にと来て見ておどろきぬ灰湯(はいだ)める波

古泉千槿も印旛沼に魅せられた歌人です。印旛沼をことのほか気に入り、自分の理想の姿を夢見た歌があります。

かくだにも茂りゆたけき草原や牛を馬を飼ひて住むべかりける



色とりどりの景色を
見せてくれる印旛沼



印旛歴史民俗資料館に展示のジオラマ



令和8年度印旛歴史民俗資料館事業

- 7月7日 歴史探訪「来福寺の薬師様に会いに行こう」
- 8月22日 体験講座「資料館を満喫しよう！」昔の遊び、星空観賞、火起こし等
- 8月23日 資料館講座「吉植庄亮と庄亮をめぐる人々」講師：飯田洋氏（吉植庄亮研究家）
- 9月27日 資料館講座「ふるさと印西の大字・小字（江戸時代）」講師：小池康久氏（元市職員）
- 10月11日 資料館講座「座談会 ふるさと印西の成り立ち 明治～昭和・平成」
講師：矢嶋毅之氏（市資料館運営委員）、中村政弘氏（元印西市史編さん専門委員）
- 11月7日 資料館講座「ふるさと印西の埴輪を語り、埴輪作りを体験」
講師：犬木努氏（大阪大谷大学教授）、山田俊輔氏（千葉大学大学院人文科学研究院教授）
- 12月9日 歴史探訪「瀬戸願定院の馬頭観音と徳性院からの印旛沼」
- 12月19日 体験講座「正月飾りづくり」講師：岩井猛和氏（印西愛郷クラブ）



開館40年 記念展示 予告

10月に、いんば地域の資料が、初めて、
印旛歴史民俗資料館へ里帰ります。
はにわ、太平洋戦争関係資料・・・



